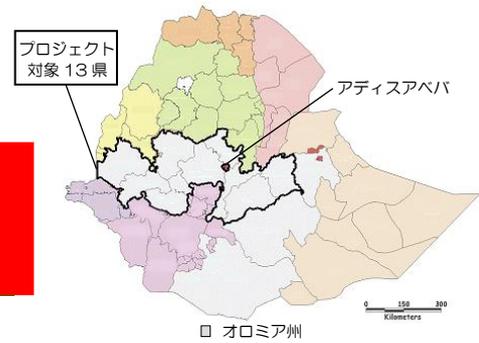




Ho! ManaBUしんぶん

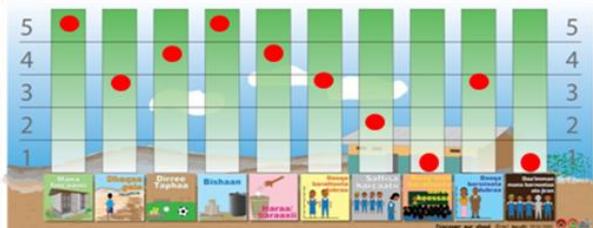
子どもの笑顔に会うために！



菊池ガラナ 本日も（泣きながら）営業中

まいどどーも菊池ガラナでございます。みなさんお元気ですか。3月末から始まったわたしの任期も終盤でございます。前々号ではパソコンマニュアルなんてものをでっちあげたりしてる様子などをお知らせしましたが、その後もじくじく作業中なのでございます。まだ任期残ってましたからっ！とほほ。で、何を作っておるのか？えーとね。まずは…

ITP (Interactive Training Package) その第4弾と致しまして、'Discover our school' ちゅうのを作っちゃります。何だそれ？でしょ。これつまり、だ。毎度言ってるように、①学校を、地域のみなさんのお力でなんとか盛り上げていただきたい→②そのためには学校とか教育全般に関して、もっともっと関心を持っていただきたい→③そのためには「自分たちの学校」をもっと身近に感じていただく、学校のことをよく知っていただくことが重要なんじゃないの？そもそも学校の職員たち自身だって、どれほど学校の現状を「ちゃんと」知っているのかしら？というのが出発点。仕掛けはクイズ。学校に関するクイズを10問ほど出します。水とかトイレ、児童の通学時間とか1教室当たりの児童数、児童・教員の男女比やら、ゴミ捨て場について、なんてのもあります。このクイズ、「この学校では」というのが問いになっているので、正解は各学校によって全部違います。だからファシリテータ（つまり学校側の人間）は、先ず自分で調べて正解を用意しなくちゃならない。自分の学校のことって、知ってるようで実は漠然と「知ってるつもり」なだけなんじゃない？具体的に、一つずつ検証してみても、という、ここが第一の狙いですな。答えは5択。5つの中から1つを選んで回答してもらうんですが、これにはちょっと仕掛けがあって、いずれも5番の答えが最高、1番が最低というようになってます。（例えば教員の男女比なら5番は「ほぼ半々」、1番は「女性教員は



クイズの答えをプロットするシート。またデカイんだ、これが。

いない、みたい)。クイズの正解を床に広げたでっかいシートに順番にプロットしていくと…ありや不思議。棒グラフになっちゃいましたっ！！このグラフを見ると、「ウチの学校はここが弱い」というのが一目瞭然。さて皆さん、どうします？という感じ。そこはかたなく企画倒れの匂いも感じつつ、ま、こんなのが一つ。

もう一つは「教育の質」にも、もうちょっとタッチしていこう、という流れの下で作っております「授業研究って何だ」。こちらはビデオ教材ですな。ビデオ教材ったらほんとにビデオ教材で、だらだらとビデオを見てるうちに研修が完結してしまうという仕組み。ビデオの中には実際に教室で収録されたデモ授業とか、ドラマ付き解説ビデオのパートなんかがあって、途中、「ここで一旦ビデオを止めてディスカッションタイム！」などという指示が出されます。授業研究とは何ぞや、というお勉強の部分と、簡単な「模擬・授業研究」も体験していただける、という具合になっちゃります。



雑誌のプロト。「オダ」と読みます。オロミア州のシンボルでもある木の名前。

さらにオマケでもう一つ。以前から何かこう、各地のコミュニティや学校現場までを広く巻き込んだ、情報共有の仕組みが有るといいよなあと感じていたわけですが、ここで一発、プロジェクト発行の雑誌を刊行してみることにしました。プロジェクトのニュースレターでもなく、教育省発の官報でもなく、言うなれば投稿雑誌。各地の取り組みや活動内容、そこからのノウハウの共有が目

的ですが、ちょっとしたコラムや、教室で皆が楽しめる遊びなんかも紹介していきます。A4で8ページ(創刊号は豪華12ページ)ですが、先ずは定期的にちゃんと出すことが肝心だと思っています(年4回予定)。手にとって、ちょっと読んでみようかという気が起きるような、キレイでおしゃれなものにしたいなあ。

本日は他にも検討中が幾つかあるんですが、口にするに日本に帰れなくなるので秘密。いくつかアイデアの種だけ放り出してそろそろ逃げにかかります。あとはプロジェクトの皆さん、宜しくね。(って、その前にこれ、本当に全部終わるのか??)

*Ho! はオロモ語でHoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBUはMana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

理科って楽しい！

～ 協隊理数科隊員との連携企画・理科キャラバン ～

青年海外協隊には多くの理数科隊員がおり、身近なものを使っての実験を工夫しながら、子どもたちが楽しんで理科を学べるよう活動しています。そんな彼らが、雨季の休暇中（6～8月）は学校が閉まってやることのないからと言って、隊員の入っていない地域の小学校で理科キャラバンを実施したいと、プロジェクトに連携を打診してきました。プロジェクトでは、教授法関連のことはこれまでほとんどタッチしてきていませんが、その重要性は十分認識しており、ぜひプロジェクト対象地域の5小学校で実施しようということになりました（7月12～16日、アルシボ州・東シボア県にて）。今回はプロジェクトからこのキャラバンを報告します（隊員のみなさんからの報告は、来月号で）。

プロジェクト対象地域に限らず、エチオピアでは、近年住民が主体となって多くの学校が建設され、就学率がどんどん伸びています。プロジェクト対象のオロミア州では、1996/7年度に25%程度だった小学校の粗就学率が、2009/10年度には9割近くに達したと報告されています。また、2008/9年度の1年間だけで、オロミア州で1,300校以上が新設されたと言われており、うち1,000校以上は住民の手（労働力と資金）によって建設されました。

せっかくこうして学校へ通えるようになっても、教員養成が追いつかず、教員の質が低いままでは、子どもたちも学校が楽しいわけではなく、保護者や地域住民も学校教育の意味が見えず、結局、中途退学が増えるだけになってしまいます。子どもたちが楽しく学べたら、教員も教えることが楽しくなります。「貧しいから」「物が無いから」ではなく、身の回りにあるものを使ってできることの可能性に気づいてもらいたい。それが、多くの隊員たちの願いであり、また、プロジェクトでもそう考えています。

隊員たちが企画した実験の中には、薬品を使うものもありましたが、いわゆる実験室にある薬品などは全く使わない実験もありましたし、薬品を乾電池から取り出して使う、というものもありました。例えば：



- 割れない風船、割れる風船（物質の厚み、水による温度の吸収、リモンという物質の性質）
- 段ボール製空気砲でろうそくを消す（空気の流れ）
- お湯と水でペットボトルを潰す（大気圧）
- 自転車の空気入れと水を使ったペットボトル・ロケット（作用・反作用の原理）



隊員とプロジェクトの事前打合せでは、当日の実験を予行演習してもらい、その場にオロミア教育局（OEB）職員も招待しました。マルガ副局長を含む20

人以上が参加して、みな真剣に見入っていました。実験を見て楽しみながら、その裏にある理科の原理についてもつばやいているのは、さすが元教員のOEB職員たち。

そして当日。子どもたちも先生や地域の人たちも、OEB職員同様、食い入るように見入っています。実験中に「手伝ってくれる人？」と隊員たちが呼びかけると、「はい！ はい！」とたくさんの手が挙がります。午前は実験披露、午後は希望者を対象に実験体験、を基本の流れとしましたが、昼食後にわざわざ学校へ戻ってきて体験を楽しむ子どもたちに、本当にみんな楽しんでくれたんだと実感できました。また、「これはどういう原理なんだ？」と隊員に個別に聞いている子もいて、「なぜ？」を問う理科の本質が見られて嬉しくなりました。

それでも、実験が終わって感想を求めると、「薬品がないからできない。物が無いからできない。だから、支援して欲しい」という意見が出てきます。一方で、「この実験のビデオはないのか？ ぜひ他の先生たちにも見せたいのだが」と言ってくるクラスター・リソース・センター（CRC）担当官もいて、「自分でもやってみたい」という思いは持ってもらえたのかな、と思えました。

隊員のみなさん、ありがとう！

